

〈論文〉

セルビア語における「前置詞なし対格」を含む句について

ヨカサーニャ

0 はじめに

セルビア語学における対格の研究は、「前置詞あり対格」(akuzativ sa predlogom) および「前置詞なし対格」(akuzativ bez predloga) の二つに分かれている。前者は対格名詞が前置詞のいわゆる目的語となる場合を扱い、後者は対格名詞が単独で用いられる場合を扱っている。¹

次の例では「novčanik-ø」(財布)は「前置詞なし対格」名詞であり、「u torb-u」(かばんに)は「前置詞あり対格」名詞である。

1) <u>Stavi-la</u>	<u>sam</u> ²	<u>novčanik-ø</u>	<u>u</u>	<u>torb-u</u> .
入れる-PST:1SG		財布-ACC:SG	～に	かばん-ACC:SG

「財布をかばんの中に入れた」

「前置詞なし対格」の代表的な研究として、Gortan-Premk (1971)「セルボ・クロアチア語における前置詞なし対格を含む句」³ (*Akuzativne sintagme bez predloga u srpskohrvatskom jeziku*)がある。この論文において Gortan-Premk は「前置詞なし対格」名詞を含む句の構造、意味および機能について述べているが、その中でも意味についても詳しく書いている。「前置詞なし対格」名詞を含む句は大きく「対象的關係を持つ句」

(sintagme objekatskih odnosa)、「二重対象的關係を持つ句」(sintagme dvostrukih objekatskih odnosa) および「副詞的關係を持つ句」(sintagme adverbnih odnosa)に分かれる。それぞれのグループは更に詳細に分かれる。本論文はセルビア語と日本語の対照研究の上でも有益であると思われる。しかし、その記述には問題点が少なくない。

Gortan-Premk (1971) はロシア語のヴィノグラードフの論文 (Виноградов В.В. (1947a)、(1947b)、(1950)) を参考にして、セルビア語の「前置詞なし対格」を分析している。日本語学において奥田 (1968-72) も同じヴィノグラードフの論文を参考にして、日本語のヲ格と動詞の連語について研究している。実証性、体系性、論理性において、奥田の論文のほうがすぐれていると思われるので、日本語についての奥田の分析に学びながら、セルビア語について分析することには大きな意義があると考えられる。本稿においては、I 節において Gortan-Premk (1971) にそって「セルボ・クロアチア語における前置詞なし

¹ 英語学では「前置詞+名詞」の構造は前置詞が主要部で名詞は前置詞の目的語であるとされるが、セルビア語学では、名詞がいわば主要部で、前置詞を介して動詞と関係を結ぶかどうかの問題とされる。

² セルビア語の確定過去は動詞 *jesam* (「be 動詞」) の現在形と現在能動分詞から成り立つ。確定過去の部分に下線を引く(例(1)において「*stavila sam*」)。

³ Gortan-Premk は名詞と動詞の組み合わせを句と呼ぶ。したがって、以下「句」と訳されるものは名詞と動詞の組み合わせを表す。

し対格を含む句」の分析を詳しく紹介する。そして、II節において、その問題点について、奥田（1968-1972）を参考にしながら指摘し、III節において奥田および Gortan-Premk の研究に倣い、日本語のヲ格とセルビア語の「前置詞なし対格」との対照について簡単な展望を試みる。

本稿の I 節の例文は Gortan-Premk（1971）掲出のものである。ただし、原文をそのまま引用したものも多少あるが、ほとんどが紙幅の制約のため適宜省略して示した。II節およびIII節の例文は筆者の作例である。

本稿では「前置詞あり対格」を扱っていないため、以下「前置詞なし対格」を「対格」と呼ぶ。

I Gortan-Premk による「前置詞なし対格」を含む句の意味

この節においては Gortan-Premk（1971）による対格を含む句の意味についてまとめる。

1. 対象的關係を持つ句

「対象的關係を持つ句」（*sintagme objekatskih odnosa*）において見られる対格の意味は対格の基本的な意味である。この場合、対格で示される事物は動詞が表わすプロセスに完全に含まれる対象である。

「対象的關係を持つ句」は三つのグループに分かれる。

1.1. 具体的な対象的關係を表わす句（*sintagme s objektima konkretnih odnosa*）

この種の間係を作る動詞は他動詞である。動詞は具体的（物理的あるいは精神的）動作を表わす。その動作の影響を受けて、対格で示される対象が変化していく。対象の変化の種類に応じて、このグループの句を細かく分けることができる。

1.1.1. 生産的關係を表わす句（*sintagme kreativnih odnosa*）

このタイプの句は事物の生産あるいは破壊を表わしている。句の主要部である動詞は生産的な動作あるいは破壊的な動作およびその動作の結果を表している。

a) 生産的關係を表わす句（*sintagme kreativnih odnosa*）

このタイプの句の対象は動詞が表わす動作によって作られた具体物を表わしている。

2) Napravi-ti rup-u 「穴を開ける」
作る-INF 穴-ACC:SG

精神的な活動の結果として成立つ抽象的概念もこのグループに入る。

3) Izmisli-ti laž-ø 「うそを作り出す」
作り出す-INF うそ-ACC:SG

b) 破壊的關係を表わす句（*sintagme destruktivnih odnosa*）

このグループは、対象が動作の影響によって破壊されるまたはなくなることを表わす。

4) Ispi-ti vod-u 「水を飲みほす」
飲みほす-INF 水-ACC:SG

- 5) Zapali-ti kuć-u 「家を燃やす」
燃やす-INF 家-ACC:SG

1.1.2. 加減的・変化的関係を表す句 (sintagme modifikativno-transformativnih odnosa)

このグループでは、対象が質においてあるいは量において変化していく。対象は具体物、生き物または抽象的な概念を表わしている。まず、「質的变化」の例を挙げる。

- 6) Pra-ti ruk-e 「手を洗う」
洗う-INF 手-ACC:SG

続いて、「量的変化」の例を挙げる。

- 7) Smanji-ti plat-u 「給料を減らす」
減らす-INF 給料-ACC:SG

1.1.3. 対象無変化の単純な含意を表す句 (sintagme s odnosima prostog obuhvatanja i angažovanja bez transformacija)

この種の句において主体は対象に対して積極的に働きかけ、対象はその動作に含まれるが、変化しない。対格で示される対象は具体物 (8) であってもいいし、抽象的なもの (9) であってもよい。

- 8) Udari-ti nek-oga 「誰かを叩く」
叩く-INF 誰か-ACC:SG
- 9) Koristiti Sunčevu energiju 「太陽のエネルギーを使う」
使う-INF 太陽の-ACC:SG エネルギー-ACC:SG

このグループには、物理的な接触対象だけでなく、言語活動の対象も含まれる。

- 10) Laga-ti muž-a 「夫をだます (夫にうそをつく)」
うそをつく-INF 夫-ACC:SG
- 11) Grdi-ti nek-oga 「誰かを叱る」
叱る-INF 誰か-ACC:SG

このグループに属する動詞の中には、同じ対象項目を対格としてでも与格としてでも取ることができる動詞がある。これらは *lagati* (うそをつく)、*savetovati* (アドバイスする)、*pomagati* (手伝う/助ける/援助する)、*smetati* (邪魔する)、*suditi* (評価する/裁判する) などである。対格を取るか与格を取るかにより意味的な違いが現れることがある。

例えば、Gortan-Premk は、*pomagati* (手伝う/助ける/援助する) が与格を取る場合には、手伝うことの目的が強調されるとする。そして、対格を取る場合には、手伝うことの対象が強調される、言い換えれば、対格を取る場合は、手伝うことによって対象を完全に含みこむことを表していると述べている。⁴

⁴ Gortan-Premk はこの主張をこれ以上詳しく説明していないので、理解し難い。Gortan-Premk(1971)の意図はこういうことであろうかと思われる。すなわち、与格を取る場合には、単に誰かに援助を与える

12) Ver-a pomaž-e čovjek-u.
 信仰-NOM:SG 手伝う-PRES:3SG 人-DAT:SG

「信仰は力を貸す (信仰は人を助ける)。」

13) Car-ø pomaž-e siromašan-ø narod-ø.
 皇帝-NOM:SG 手伝う-PRES:3SG 貧乏-ACC:SG 庶民-ACC:SG

「皇帝が貧乏な庶民を支援している。」

また、savetovati (アドバイスする)、posavetovati (アドバイスする、相談する) は与格を取る場合には「誰かにアドバイスを与える」という意味になるが、対格を取る場合は「アドバイスにより誰かを助ける、支える」という意味になると述べている。

14) U sel-u tog-a čovjek-a bi-o jedan-ø
 ～に 村-LOC:SG その-GEN:SG 人-GEN:SG いる-PST:3SG 一人-NOM:SG
 pametan-ø čovjek-ø, pa je odni-o t-u
 頭が良い-NOM:SG 人-NOM:SG ～ので 持っていく-PST:3SG その-ACC:SG
 bundev-u k njem-u, da mu⁵ on-ø
 かぼちゃ-ACC:SG ～に 彼-DAT:SG ～ように ～彼-DAT:SG 彼-NOM:SG
 savjet-uje⁶ što je to-ø.

アドバイスする-PRES:3SG 何-NOM:SG である-PRES:3SG それ-NOM:SG

「その人の村には一人の頭の良い人がいたので、それは何なのか彼にアドバイスしてもらえるように、彼にそのかぼちゃを持っていった。」

15) Niko-ga da je posavet-uje,
 誰も～ない-GEN:SG ～ように 彼女-ACC:SG アドバイスする-PRES:3SG
 da je upu-ti, niko-ga
 ～ように 彼女-ACC:SG 指導する-PRES:3SG 誰も～ない-GEN:SG
 da joj pomogn-e.
 ～ように 彼女-DAT:SG 手伝う-PRES:3SG

「誰も彼女をアドバイスせず、指導せず、また誰も彼女を助けなかった。」

一方、Gortan-Premk は lagati (うそをつく) あるいは smetati (邪魔する) の場合は、

ということを表わしており、一方、対格を取る場合には、お金などの手段によって誰かを守るあるいは育てるといった事情を表わしていると言いたいようである。この了解が正しければ、与格を取る名詞の文法的な意味は「相手」に近いのに対し、対格を取る名詞は「対象」になると考えられる。

⁵ セルビア語の人称代名詞は強調されている形および強調されていない形がある。この例文において「mu」は「on」(彼)の与格の強調されていない形であり、「njemu」は同じ人称代名詞の与格の強調されている形である。

⁶ Savjetovati は savetovati のイエ方言のヴァリエントである。

セルビア語、クロアチア語、ボスニア語の主要な方言としてシュト方言がある。シュト方言の下位区分はスラブ祖語の母音「ヤト」(ѣ) の変化によるものである。「ヤト」が、「e」となるものをエ方言(セルビア語の標準形)、「ije/je」となるものをイエ方言、「i」となるものをイ方言と呼ぶ(ekavski dijalekat, ijekavski dijalekat, ikavski dijalekat)。

「アドバイスする」はそれぞれの方言において savetovati, savjetovati, savitovati のようになる。

対格を取るか与格を取るかによる意味的な違いがほとんど見られないとする⁷。

なお、これらの動詞が対格も与格も取ることができるという傾向は、スラブ語族の中でもセルビア語の特徴であると言える。他のスラブ語ではこれらに相当する動詞は与格のみを取るのが普通である。

1.1.4. 動的關係を表わす句 (sintagme mobilnih odnosa)

このタイプの句においては、動作の実行によって空間における対象の場所が変わる。場所の変化の種類やそれが行われる方法は動詞の意味による。

16) Stavi-ti **knigu** pod jastuk-ø 「本を枕の下に置く」
置く-INF 本-ACC:SG ~の下 枕-ACC:SG

対象が衣服を表わし、動詞がその着脱を表わす句もこのグループに入る。

17) Skinu-ti **haljin-u** 「ドレスを脱ぐ」
脱ぐ-INF ドレス-ACC:SG

上記の例文は動作主の物理的な動作によって行われるものである。しかし、このグループには動作主の物理的な動作を表すものだけでなく、動作対象の移動を促す指示などを表わすものもある。

18) Protera-ti **ljud-e** iz zemlj-e 「人々を国から追い出す」
追い出す-INF 人-ACC:PL ~から 国-GEN:SG

また、乗り物の運転を表わす句もこのグループに属する。

19) Vozi-ti **kol-a** 「車を運転する」
運転する-INF 車-ACC:PL

このグループに属する特別なものとして、対象が身体部位を表わし、動詞がその部位が含まれる動作を表わす句がある⁸。

20) Podi-ći **glav-u** 「頭を上げる」
上げる-INF 頭-ACC:SG

1.1.5. 動的關係の変化を表す句 (sintagme s modifikacijama mobilnih odnosa)

動詞が表わす動作の影響によって対象の動的性質が変化していく。動的性質の変化は方向の変化と動作の速さの変化を含む。

21) Ubrza-ti **hod-ø** 「歩みを速める」
速める-INF 歩くこと-ACC:SG

22) Okrenu-ti **kol-a** udesno 「車を右に曲がらせる」
曲がらせる-INF 車-ACC:PL 右に

このグループに属する動詞は方向の変化と動作の速さの変化に限られているので、これ

⁷ 意味的な違いはほとんどないと思われるが、現代セルビア語では lagati(うそをつく)が対格名詞を取ることが多く、与格名詞を取ることが少なくなっている。また、smetati(邪魔する)は与格名詞を取るのが普通であり、対格名詞を取る例がほとんど見られない。

⁸ このタイプの動詞について、Gortan-Premk は、身体部位が体に固定され、ほかの対象に比べて移動性が低いという点で、このタイプの組み合わせは特別なものであるが、表現する言語事実はほかの「動的關係を表わす句」と同様であるとする。

らの数と使用頻度は少ない。

1.1.6. 対象の相対的な変化を表す句 (sintagme s relativnim promenama objekta)

このタイプの句においては、対象が変化せず、他の要素（例えば、主体、手段、方法を表わす要素）が対象に対して位置や関係を変える。そのため、対象の変化は相対的で間接的であると言える。

23) Pokri-ti lic-e maram-om 「スカーフで顔を覆う」
覆う-INF 顔-ACC:SG スカーフ-INST:SG

24) On-a ga dočeku-je lepo.
彼女-NOM:SG 彼-ACC:SG 出迎える-PRES:3SG よく（親切に）
「彼女は彼を親切に出迎える。」

Istaći（強調する）および pokazati（見せる）もこのグループに含まれる。

25) Ista-ći njegov-u vrednost-ø 「彼の価値を強調する」
強調する-INF 彼の-ACC:SG 価値-ACC:SG

また、対象に対する主体の態度の変化や対象の身分の変化を引き起こすことを表す動詞もこのグループに含まれる。

26) Ispisa-ti det-e iz škol-e 「子供を退学させる」
退学させる-INF 子供-ACC:SG ~から 学校-GEN:SG

また、「受け継ぐ」、「もらう」、「贈る」、「あげる」、「買う」、「売る」、「注文する」などの動詞もこのグループに属する。

1.1.7. 賠償的關係を表わす句 (sintagme kompenzacionih odnosa)

これらの句は動詞が対象のための賠償として行われる動作を表している。「替える」、「反省する」、「かたきを討つ」、「払う」のような動詞がこのグループに入る。

27) Osveti-ti mrtv-og oc-a 「死んだ父のかたきを討つ」
かたきを討つ-INF 死んだ-ACC:SG 父-ACC:SG

28) Iskaja-ti svoj-e greh-e 「自分の罪を反省する」
反省する-INF 自分の-ACC:PL 罪-ACC:PL

1.2. 抽象的な対象的關係を表わす句 (sintagme s objektima apstraktnih odnosa)

「具体的な関係を表す句」は対象の生産あるいは変化を表わすものが多い。しかし、「抽象的な対象的關係を表す句」にはそのような傾向が見られず、ただ、主体と対象の（抽象的な）関係が述べられているだけである。このタイプの句において対象は動詞が表すプロセスに含まれているとは言えるが、それによって変化を被るとは言えない。

1.2.1. 所有關係を表わす句 (sintagme posesivnih odnosa)

このタイプの句は所有關係を表す。このタイプの句を作る動詞は imati（持つ）および posedovati（所有する）である。対象は主体が所有する具体物（29）、主体の身体部位（30）あるいは主体の外部に存在する關係物（31）を表す。

- 45) Bol-i **ga** nog-a. 「足が彼を痛くさせる(彼は足が痛い)。」
痛む-PRES:3SG 彼-ACC:SG 足-NOM:SG

1.3. 空間的対象的關係および時間的対象的關係を表わす句 (sintagme s objektima prostornih i vremenskih odnosa)

このタイプの句を作る動詞は、他の「対象的關係を表す句」と同じように、他動詞であり、対象が含まれるプロセスを表しているが、空間的な意味と時間的な意味を持っているので別のグループとして立てることができる。

1.3.1. 空間的対象的關係を表わす句 (sintagme objekatsko prostornih odnosa)

このタイプの句はある障害物を乗り越える、または、ある空間を渡ることを表している。

- 46) Pre-ći **ulic-u** 「道路を渡る」
渡る-INF 道路-ACC:SG
- 47) Prepliva-ti **rek-u** 「川を泳ぎ渡る」
泳ぎ渡る-INF 川-ACC:SG

1.3.2. 時間的対象的關係を表わす句 (sintagme objekatsko-vremenskih odnosa)

このタイプの句は時間を過ごすことを表している。

- 48) Proves-ti **dan-ø** 「一日を過ごす」
過ごす-INF 一日-ACC:SG
- 49) Prožive-ti **mladost-ø** u tom grad-u
生きる-INF 青年時代-ACC:SG ~で その-LOC:SG 町-LOC:SG
「青年時代をその町で暮らす」

2. 二重対象的關係を持つ句 (sintagme s dvostrukim objekatskim odnosima)

このタイプの句では、動詞の要求する対象が二つある。二番目の対象は動詞に関わっているだけでなく、一番目の対象にも関わっている。

2.1. 二重対格を持つ句 (sintagme s dvojnim akuzativom)

このタイプの句における動詞は učiti, naučiti, poučiti (教える)、moliti, zamoliti (頼む)、pitati, zapitati, upitati (聞く) など、伝達や言語活動を表すものである。一番目の対格は動詞が表すプロセスに含まれる人であり、二番目は動詞のプロセスの内容あるいは目的を詳しく指定している。

- 50) Uči-ti **đak-e** **pesm-u** 「生徒に歌を教える」⁹
教える-INF 生徒-ACC:PL 歌-ACC:SG
- 51) Pita-ti **nek-oga** **pitanj-e** 「誰かに質問を聞く(誰かに質問する)」
聞く-INF 誰か-ACC:SG 質問-ACC:SG

「二重対格を持つ句」の使用はセルビア語だけでなく、他のスラブ語でも見られる。

⁹ 日本語では二重ヲ格構文がないため、例文の翻訳において動詞が表すプロセスで含まれる人を二格で表す。

2.2. 述語的対格を持つ句 (sintagme s predikativnim akuzativom)

これらは現代語では見られないので、ここでは省略する。

3. 副詞的關係を持つ句 (akuzativne sintagme adverbnih odnosa) ¹⁰

ここまでの句は対象的な關係を表していたが、これらは対象的な關係を含まず、副詞的な關係を表している。

3.1. 時間的關係を表わす句 (sintagme vremenskih odnosa)

このタイプの句は対格が動詞で表されるプロセスの行われる時間あるいは期間を表している。¹¹ Dan (一日)、jutro (朝)、noć (夜)、čas (瞬間) など相対的に短い時間を指定する表現を含む。

このタイプの表現は対格だけでなく、属格を取ることもある。

52) Svak-i dan-ø id-e u kupovin-u.
毎-ACC:SG 日-ACC:SG 行く-PRES:3SG ~へ 買い物-ACC:SG
「毎日買い物をしに行く。」

53) Svak-i čas-ø usta-je sa mest-a.
毎-ACC:SG 瞬間-ACC:SG 立つ-PRES:3SG ~から 席-GEN:SG
「しょっちゅう席を立つ。」

Godina (一年)、mesec (一月)、nedelja (一週間) など相対的に長い時間を指定する表現は属格を取る。

54) Svake godine idem na more. 「毎年海へ行く。」
毎-GEN:SG 年-GEN:SG 行く-PRES:1SG ~に 海-ACC:SG

3.2. 量的關係を表わす句 (sintagme mernih odnosa)

このタイプの句は三つのグループに分かれる。

3.2.1. 本質的量的關係を表わす句 (sintagme pravih mernih odnosa)

このグループでは三つの下位類が見られる。第一に対格で示されるものが属格で示され

¹⁰ 「対象的關係を表す句」とは違って、このタイプの句は動作が行われる時間あるいは量(普通文中に副詞で表わすことが多い要素)を表わすので、「副詞的關係を表わす句」と名づけられると思われる。また、「対象的關係を表す句」における対格名詞が文中で直接目的語の機能を果たすのに対し、このタイプの句における対格名詞は(普通は副詞で表わされる)副詞的修飾語あるいは副詞的補語の機能を果たすというところにもこの名づけの動機があると思われる。

¹¹ このタイプの句は「時間的対象的關係を表わす句」とは異なる。Gortan-Premk はこのことについて説明していないが、「時間的対象的關係を表わす句」における対格名詞が「過ごす対象としての時間」を表わすのに対し、「時間的關係を表わす句」における対格名詞は動作の対象とならず、「動作が行われる時間」を表わしていると思われる。

この二つのタイプの句の違いは、動詞の意味的な種類の違いに現れる。「対象的時間的關係を表わす句」を作る動詞は数が少なく、provesti, provoditi(過ごす)、presedeti(座って過ごす)、prespavati(寝て過ごす)のようなものに限られる。一方、「時間的關係を表わす句」を作る動詞には意味的な制限がない。

また、この二つのタイプの句における対格名詞が文中に果たす機能も異なる。「時間的対象的關係を表わす句」における対格名詞は直接目的語になるのに対し、「時間的關係を表わす句」における対格名詞は副詞的修飾語になる。

るものの量を表している組み合わせがある。

55) Kupu-je kilogram-ø jabuk-a. 「りんごを一キロ買っている。」
 買う-PRES: 3 SG 一キロ-ACC:SG りんご-GEN:PL

第二に、物事の価値、値段あるいは重さを表している組み合わせがある。このタイプの句は自動詞と組み合わせる点で特別なものであると言える。これらを作る動詞は *koštati*、*vredeti*、*valjati*、*stajati* (かかる)、*imati vrednost*、*vredeti* (価値がある) および *biti težak*、*meriti*、*težiti* (重さがある) である。

56) Ov-o tež-i jedan-ø kilogram-ø.
 これ-NOM:SG 重さがある-PRES:3SG 一-ACC:SG キロ-ACC:SG
 「これは一キロの重さがある。」

第三に、動詞が表すプロセスの回数を指定する組み合わせがある。対格で示される数詞 (変化数詞だけが曲用を持つ) と属格で示される *put* (～回/～度) という名詞から成り立つ。

57) Stotin-u put-a ga je udrai-o.
 百-ACC:SG ～回-GEN:PL 彼-ACC:SG 叩く-PST:3SG
 「彼を百回叩いた。」

3.2.2. 空間的量的関係を表わす句 (sintagme merno-prostornih odnosa)

このタイプの句は対格が移動の量を表わす。これらは「空間的対象の関係を表わす句」と違うものである。「空間的対象関係を表わす句」は、他動詞を取り、対格で示されるものが目的語である。それに対して、「空間的量的関係を表わす句」は、ほとんど自動詞を取り、対格で示されるものが副詞的修飾語である。また、「空間的対象の関係を表わす句」は対格が移動で乗り越える空間あるいは渡る空間を示しているのに対して、「空間的量的関係を表わす句」は移動の量、長さを示している。

58) Putova-ti stotin-e kilometar-a voz-om
 旅行する-INF 百-ACC:PL キロメートル-GEN:PL 電車-INST:SG
 「電車で数百キロメートル旅行する」

3.2.3. 時間的量的関係を表わす句 (sintagme merno-vremenskih odnosa)

このタイプの句は動作の継続の長さを表わしている。動詞には、意味的制限があまりなく、他動詞である場合もあるし、自動詞である場合もある。したがって、このタイプの句を作る動詞の数は少なくないが、対格で示される名詞は時間の長さを表わしているものに限られる。

Gortan-Premk は「時間的量的関係を表わす句」と「時間的対象の関係を表わす句」(1.3.2.) は違うものであると述べている。「時間的対象の関係を表わす句」における対格名詞は過ごす時間あるいは期間を表わしているとする。それに対し、「時間的量的関係を表わす句」における対格名詞は特定の動作の長さを表わしているとする。¹²

¹² 上記の *Gortan-Premk* の説明は理解し難い。この二つのタイプの句の違いは、「時間的対象の関係

59) Zabun-a je traja-la nedelj-u dan-a.
 混乱-NOM:SG 続く-PST:3SG 一週間-ACC:SG 日-GEN:PL
 「混乱の状態が一週間続いた。」

II Gortan-Premk (1971) の分析の問題点

Gortan-Premk (1971) はセルビア語の対格名詞の用法について豊富な情報を有するが、検討の余地も少なくないと思われる。本節では奥田 (1968 - 1970) を参考にしつつ、Gortan-Premk (1971) の問題点を指摘する。

1. 方法論における問題点

Gortan-Premk は対格を含む句の意味を詳細に記述しているが、意味記述を共起する他の言語形式との関係において行う姿勢に乏しい。すなわち、考察を行う際には多くの場合動詞の意味のみに注目し、一部の項目においては共起する対格名詞が抽象物であるか具体物であるかなどについて言及する箇所もあるが、特定の意味が現れる場合の環境 (共起する他の名詞項や副詞句の種類など) について徹底的に説明しているわけではない。

セルビア語における対格名詞の意味や機能を理解するためには、対格名詞の語彙的な種類なども十分考察に含める必要があると思われる。また、考察は単に名詞と動詞との組み合わせだけでなく、他の要素との組み合わせも考慮する必要があると思われる。したがって、対格名詞の意味機能の記述を行う際、対格名詞と動詞の関係だけに注目するのではなく、それが他のどのような文中要素と組み合わせるかを記述する必要がある。その際、組み合わせる他の要素の意味的な性質と文法的な役割を考慮に入れる必要もある。そうすることによって、ある特定の意味・機能を備えた対格名詞が現れる条件の一般化を目指すことが可能となるのである。

例えば、Gortan-Premk は対象の移動を表すものを「動的関係を表す句」と呼び、このタイプの句について「動作の実行によって空間における対象の場所が変わる」と述べているが、構造の特徴を詳しく説明しているわけではない。しかし、このタイプの句における対象の意味的な性質からとらえると、それが多くの場合具体名詞になるという特徴がある。また、「移動前の場所」および「移動後の場所」という文法的な役割を表す要素が文中に

表わす句」における対格名詞が「過ごす対象としての時間」を表わすのに対し、「時間的量的関係を表わす句」における対格名詞が「運動の量的側面としての時間」を表わすところにあると思われる。この二つのタイプの句の違いは、動詞の意味的な種類の違いに現れる。「対象的時間的關係を表わす句」を作る動詞は数が少なく、*provesti*, *provoditi*(過ごす)、*presedeti*(座って過ごす)、*prespavati*(寝て過ごす)のようなものに限られる。一方、「時間的量的關係を表わす句」を作る動詞には意味的な制限があまりなく、*trajati*, *potrajati*(続く)がもっとも典型的ではあるが、*govoriti*(話す)、*kašljati*(咳をする)、*iščeznuti*(消える)、*sanjati*(夢を見る)、*slušati*(聞く)、*spavati*(寝る)なども例文に現れる。

また、この二つのタイプの句における対格名詞が文中に果たす機能も異なる。「時間的対象的關係を表わす句」における対格名詞は直接目的語になるのに対し、「時間的量的關係を表わす句」における対格名詞は副詞的補語あるいは副詞的修飾語になる。

頻繁に現れることも重要な特徴である。なお、これらの要素は、意味の面から見れば、言うまでもなく場所名詞である。その例を以下に挙げる。¹³

60) Bakren-e	marijaš-e...	ljud-i	su baca-li
銅-ACC:PL	コインの種類-ACC:PL	人々-NOM:PL	投げる-PST:3PL
na	dn-o	crn-e	skel-e...
～の上に	底-ACC:SG	黒い-GEN:SG	筏-GEN:SG

「人々は...銅貨を黒い筏の底に投げていた...」

これらの構造の特徴を考慮に入れると、対象の移動を表すものを以下のように一般化することが可能になる¹⁴。

[具体名詞]	iz/sa[場所名詞]	na/u/pod/niz[場所名詞]	[移動動詞]
(対象)	〈移動前の場所〉	〈移動後の場所〉	

以上の見地に立って、現代セルビア語における対格名詞の意味および機能の記述方法を再検討する必要があると思われる。

この再検討作業にあたっては、奥田靖雄の「を格の名詞と動詞のくみあわせ」を参考にすることができる。奥田（1968-72）は豊かな例を元に、言語形式との関係において日本語のヲ格の意味が現れる条件を設定し、そこから意味の一般化を行っている。考察は、文の要素の意味的な性質および文法的な役割を徹底的に考えながら行われる。セルビア語の対格の分析においてもこのような研究方法を取り入れる価値があると思われる。そして、セルビア語の対格および日本語のヲ格の使用の範囲はいつも同じわけではないが、二つの言語の類似点および相違点を考察する際にも奥田の研究が役に立つと思われる。

なお、Gortan-Premk が挙げている例文には、今となっては古い年代のものが混じっており、また用例から文全体の構造を読み取ることができないものも多いので、現代セルビア語の分析のためには適切な用例を改めて選ぶ必要があると言えよう。

2. 分類における問題点

Gortan-Premk（1971）の対格名詞の分類の仕方にも問題が見られる。例えば、「お世辞を言う」、「苦情を言う」など、言語活動に関するものが「生産的関係を表わす句」に含まれるが、これらは「家を建てる」や「ケーキを作る」など、典型的な生産的関係を表すものとは性質が異なると考えられる。奥田（1968-71）は日本語においてこれらのような例の存在を考察し、「通達の内容規定」と名づけている（奥田 1983:137）。このグループの代表的な例として「じょうだんをいう」、「あいさつをのべる」、「日本語をはなす」、「おしまいの言葉をかたる」のようなものを挙げている。これらはある程度生産性が認められるが、単純な生産を表すものとは異なる。生産を表すものは、材料を表している要素が文中に現れやすい（「砂糖と卵でケーキを作る」、「レンガで家を建てる」）が、「お

¹³ 筆者の用例コーパスからの例である。

¹⁴ 要素の意味的な性質を[]の中に示し、文法的な役割を〈〉の中に示す。

世辞を言う」、「苦情を言う」などはそうではない。また、これらが通達の側面を含むことが単純な生産とは異なる特徴である。以上のことから、セルビア語の対格名詞についても「通達の内容規定」のような項目を立てるべきであると考えられる。

そして、Gortan-Premk (1971) はこのグループの代表例の中に「それをいう」、「それをかたる」のような、曖昧な例文も挙げている。これらの例文は動詞の意味しかはっきりしていないので、文の構造を読み取ることができない。言語活動に関する動詞は異なる環境において「通達のむすびつき」（「父の病状をたずねる」、「自分の情熱を語る」、「勝子の死をきく」）も作ることが可能であるため、文の構造が読み取れるような例文を挙げる必要がある。

すなわち、「通達のむすびつき」においてはヲ格名詞が原則的に抽象名詞であるのに対し、「通達の内容規定」を表すものは「名前」、「苦情」、「じょうだん」、「お世辞」など、言語活動の内容を質的に特徴づけるもの、あるいは、「日本語」、「ドイツ語」などに限られる。また、「通達のむすびつき」は相手を表すニ格、あるいはカラ格の名詞、仲間を表すト格名詞で広げられていること（「保科家での会話をみね代に報告する」等）が特徴である（奥田 1983:111）。

考えてみると、この二つのむすびつきは確実に異なることが分かる。「通達のむすびつき」は発話行為とは別に存在している内容について述べ（「父の病状」、「自分の情熱」、「勝子の死」等）、これらはヲ格名詞の対象性が比較的高い。それに対して、「通達の内容規定」におけるヲ格名詞（「じょうだん」、「あいさつ」、「おしまいの言葉」等）はその場での発話行為とは切り離せないものであり、対象性が「通達のむすびつき」より低い。

上述の特徴から分かるように、奥田 (1968-1972) は分類を設定する際、動詞の意味あるいは性質だけでなく、ヲ格名詞と組合わさる名詞の性質および文のほかの要素の性質も説明することの重要性を示している。このような方法でセルビア語の対格の研究も進める必要性が感じられる。

また、Gortan-Premk (1971) では、「対象無変化の単純な含意を表す句」の中には「誰かを叩く」、「鳩をなでる」など、代表的なものほかに、「誰かを叱る」、「誰かをほめる」のようなものも含まれる。これらのような例は奥田において「表現的な態度のむすびつき」として分類される。確かに、「叱る」や「ほめる」が対象の変化という側面を含意しないのは事実であるが、これらは、奥田の主張のように、まずは「おもに言語をもちいて、感情的な、評価的な態度をそとに表わす」（奥田 1983:126）タイプのむすびつきだと言える。なお、これらにおいてヲ格名詞が多くの場合人を示す名詞だという奥田の指摘も重要である。また、動詞が発言の内容をさしだす引用句でおぎなわれる（「梅子は佐川の令嬢をたいへんおとなしい子だとほめた」）ことも「表現的な態度のむすびつき」において重要な特徴として挙げられる。セルビア語の対格の分類においても、このように、文の要素の性質をもう少し広く考察し、徹底的に記述する必要があると思われる。

同じ「対象無変化の単純な含意を表す句」として、「誰かに何かを頼む」、「何かをねがう」のようなものも含まれるが、これらは奥田の分類において「のぞむ」「ねがう」「希望する」「もとめる」「命令する」のような動詞と一緒に「要求的なむすびつき」として挙げられている。これらは相手を表す二格名詞で広げられることおよびヲ格名詞が動作性名詞であることが構造の特徴である（「娘の手術を^{きみに}たのむ」、「^{ぼくに}節煙を命じる」）。また、これらにおける相手は単なる話し相手ではなく、ヲ格の名詞で示される動作の主体でもある（奥田 1983:132）。

このように、奥田の分類を参考にすることにより、セルビア語の対格名詞の分析でも「対象無変化の単純な含意を表す句」の代表的なものから「態度を表わすもの」および「要求を表すもの」を区別して考える必要があることが明らかになる。

このほか、Gortan-Premk は「子どもの躄をする」、「子どもを養う」など、対象への働きかけを表わしながら、対象の変化について情報を必ずしも与えないものを「変化を表すもの」として分類している。また、「知覚的關係を表わす句」と「認知的關係を表わす句」を一緒にすることや「感情的な關係を表わす句」に要求を表わすもの（「財産を望む」、「手伝いを求める」）を含める点など、再考の余地のある個所は少なくない。

奥田の日本語のヲ格の分類をそのままセルビア語の対格の分析にあてはめることができないことはもちろんであるが、奥田の分析手法をセルビア語の研究に導入することで、日本語のヲ格名詞とセルビア語の対格名詞との間の類似点と相違点とを意識しながら、セルビア語の事実について発見することが可能になるとと思われる。そして、奥田の論文の方法論は実証性、体系性、論理性において優れているので、それに学びセルビア語の対格の再考察を試みる意義があると思われる。

3. 動詞の意味の解釈についての問題点

1.1.3において述べたように、Gortan-Premk は対格も与格も取ることができる動詞をスラブ語の中でもセルビア語の特徴として挙げているが、これらが対格を取る場合および与格を取る場合の意味的な違いの説明は理解し難いように思われる。

Gortan-Premk は「pomagati（手伝う/助ける/援助する）が与格を取る場合、手伝うことの目的が強調されるが、対格を取る場合、手伝うことの対象が強調される」と述べているが、このような一般化ではこれらの二つの用法の違いを説明することはできないと思われる。

与格と対格の選択は、実際、pomagati が「手伝う/助ける」という語彙的な意味を実現するか、「援助する」という語彙的な意味を実現するかという意味的な違いと連動していると思われる。つまり、pomagati が与格を取る場合「手伝う/助ける」という語彙的な意味を実現する(61)が、対格を取る場合は「援助する」という語彙的な意味を実現する(62)。

61) Dec-a svak-i dan-ø pomaž-u majci-
 子供-NOM:PL ~毎-ACC:SG 日-ACC:SG 手伝う - PRES:3PL 母-DAT:SG
 u kuhijnj-i.
 ~で 台所-LOC:SG
 「子供たちは毎日母の台所での用事を手伝っている。」

62) Vlad-a pomaž-e stipendij-ama izuzetn-e-
 政府-NOM:SG 援助する-PRES:3SG 奨学金-INST:PL 優秀-ACC:PL
 student-e.
 学生-ACC:PL
 「政府は奨学金で優秀な学生を援助している。」

また、savetovati (アドバイスする) に関しては、「与格を取る場合「誰かにアドバイスを与える」という意味になるが、対格を取る場合は「アドバイスにより誰かを助ける、支える」という意味になる」と述べているが、これらの二つの格の使い分けの間の意味的な違いは非常に微妙であり、対格を取る場合も「誰かにアドバイスを与える」という意味になる場合が見られる。Savetovati が「誰かにアドバイスを与える」という意味になる場合および「アドバイスにより誰かを助ける、支える」という意味になる場合の間には、実際、名詞の格の違い以外にも大きな形式的な違いが見られる。Savetovati が「アドバイスにより誰かを助ける、支える」という意味になる場合、対格を補足的な内容で補う必要がない (63) が、「誰かにアドバイスを与える」という意味になる場合は、対格を取っても、与格を取っても、アドバイスの内容を da (~ように) 節 (64)、関係節あるいは動作性名詞で文中に補う必要があるという事実が見られる。

63) Lako je zdrav-ome bolesn-oga
 簡単 (ADV) である-PRES:3SG 元気な (人) -DAT:SG 病気の (人) -ACC:SG
 savetova-ti.
 アドバイスする-INF
 「元気な人にとって病気の人をアドバイスで支えることは簡単である。」

64) Savetova-ti det-e/det-etu da se
 アドバイスする-INF 子供-ACC:SG/DAT:SG ~ように REFL
 druž-i sa dobr-im ljud-ima.
 友達になる-PRES:3SG ~と 良い-INST:PL 人-INST:PL
 「子供に良い人と友達になるように、アドバイスする」

Ⅲ 日本語のヲ格とセルビア語の前置詞なし対格の類似点および相違点をめぐって

奥田 (1968-1972) および Gortan-Premk (1971) の研究を参考にし、日本語のヲ格およびセルビア語の対格を対照させることができる。

奥田はヲ格の名詞と動詞の組み合わせを大きく「対象へのはたらきかけ」(「クルミを割

る」、「湯を沸かす」、「生活水準を高める」等)、「所有のむすびつき」(「お金を貸す」、「銀行にお金をつみたてる」等)、「心理的なかわり」(「苦心を理解する」、「父の病状をたずねる」、「へびをおそれる」等)および「状況的なむすびつき」(「みちをのぼる」、「暑中休暇をくらす」、「人ごみの中を歩く」等)の四つに分けている。それぞれのカテゴリーは更に詳細に分かれる。

奥田の分類に倣い、日本語のヲ格の名詞とセルビア語の対格の関係を考えた限り、次のことが指摘できる。詳細は改めて別稿で述べることにし、ここでは簡単に列挙する。

「対象へのはたらきかけを表すむすびつき」と「所有の結びつき」はセルビア語において対格になる。一方、働きかけが希薄になるカテゴリーは、セルビア語では対格になる場合もあれば、他の格あるいは前置詞句を取る場合が増える。対格を取らないものの中に、いくつかの傾向が見られる。第一に、「知的なむすびつき」(「難しさを考える」、「身分を思う」のようもの)を作る思考動詞は「o (について) +所格」という形を取る。

65) Razmišlja-ti o _____ teškoć-i
 考える-INF ~について 難しさ-LOC:SG
 「難しさについて考える (難しさを考える)」

66) Misli-ti o _____ položaj-u 「身分について思う (身分を思う)」
 思う-INF ~について 身分-LOC:SG

そして、「通達の結びつき」(「(誰かに) あなた方の関係を話す」、「(誰かに) 自分の情熱をかたる」のようなもの)を作る、言語活動を表す動詞は対格を取る場合もあれば、「o (について) +所格」という形になることが多い。

67) Priča-ti nekom-e o _____ svoj-oj _____ strast-i
 語る-INF 誰か-DAT:SG ~について 自分の-LOC:SG 情熱-LOC:SG
 「誰かに自分の情熱について語る (誰かに自分の情熱を語る)」

「状況的なむすびつき」は、はたらきかけを表さないもので、セルビア語では対格を取らないことが多い。「うつりうごくところ」(「道をのぼる」、「堤防をあるく」のようなもの)を表すものは基本的に具格で表現される。

68) Hodati obalom _____ mora 「海岸を歩く」
 歩く-INF 海岸-INST:SG 海の-GEN:SG

ただし、次のような場合は異なる表現手段を取る。

何かの上での移動を表わすもの(「湖水のうえをとぶ」のようなもの)は「iznad (～のうえ) +属格」という形になる。

69) Leteti iznad _____ jezera 「湖水のうえをとぶ」
 とぶ-INF ~のうえ 湖水-GEN:SG

下の方向への移動を表わす動詞(「坂をおりる」のようなもの)は「niz (～の下) +対格」あるいは具格も取ることができる。

70) Silazi-ti niz padin-u/padin-om

降りる-INF ~の下 坂-ACC:SG/INST:SG

また、「はなれるところ」を表すもの（「部屋を出る」のようなもの）は「iz（～から）+属格」という形を取ることが多い。

71) Izaći iz sobe

「部屋から出る（部屋を出る）」

出る-INF ~から 部屋-GEN:SG

「花のにおいのなかをあるく」、「霧のなかを駐車場の方へ急ぐ」のような状況的なむすびつきは「kroz（～を通して）+対格」という形を取る。

72) Hodati kroz miris cveća 「花の匂いのなかをあるく」

歩く-INF ~を通して 匂い-ACC:SG 花-GEN:SG

これらの用法はセルビア語の対格名詞で表わすことが不可能である。

しかし、「時間的なむすびつき」には対格名詞になるものもあれば、副詞的な要素で表すものもある。例えば、「夏休みを楽しくすごす」のようなものはセルビア語でも対格名詞になる。Gortan-Premk はこれらを「時間的対象的關係を表わす句」と呼ぶ（例（48）、（49））。一方、「夕飯のあとをさびしくすごす」のようなものは対格名詞で表すことが不可能であり、副詞的な要素（副詞句）で表すことになる。

73) Sedeti tužno posle večere.

座る-INF さびしく (ADV) ~後 (ADV) 夕飯-GEN:SG

一方、Gortan-Premk のセルビア語の対格の研究を参考にすると、日本語のヲ格にない用法が見られる。（44）、（45）の例に見られるように、セルビア語の対格は、動詞で表される状態および文法的な主語で表される物事によって影響される人あるいは生き物を表すことができる。この構造において対格で示される文法的な目的語は論理的な主語となり、文法的な主語は対格で示される目的語の状態を起こす原因を表している。

また、セルビア語は、učiti（教える）、moliti（頼む）、pitati（聞く）など、伝達や言語活動を表す動詞では二重対格を取ることができることも日本語との相違点である。

そして、セルビア語における対格名詞が動詞で表されるプロセスの行われる時間あるいは期間を表していること（例（52）、（53））、および、移動の長さ（58）および時間の長さ（59）を表していることも日本語との相違点である。

IV 終わりに

セルビア語の対格の意味の代表的な研究である Gortan-Premk（1971）は方法論や分類において再考すべき点が少なくない。日本語学の奥田（1968-72）は豊かな例を元に、言語形式との関係において日本語のヲ格の意味が現れる条件を設定し、そこから意味の一般化を目指している。本稿においてはセルビア語の対格の意味の分析において奥田の研究に学ぶ意義について述べてみた。そして、セルビア語の対格と日本語のヲ格の類似点および相違点について考えてみた。

奥田 (1968-72) に倣い、セルビア語の対格の意味の再考察を進めることが今後の課題である。

参考文献

- Виноградов В.В. (1947a), *Русский язык* (ロシア語), Москва
Виноградов В.В. (1947b), *Об основных типах фразеологических единиц в русском языке* (ロシア語における主なフレーズの単位について), Сборник «А.А. Шахматов», Москва
Виноградов В.В. (1950), *Понятие синтагмы в синтаксисе современного языка* (現代語の構文論における句の定義) Москва
Gortan-Premk, Darinka (1971), *Akuzativne sintagme bez predloga u srpskohrvatskom jeziku* (セルボ・クロアチア語における「前置詞のない対格」を含む句), Institut za srpskohrvatski jezik, Biblioteka južnoslovenskog filologa, Nova serija, knj.2
奥田靖雄 (1968-72) 「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」『教育国語』12, 13, 15, 20, 21, 23, 25, 26, 28 [再録：言語学研究会編 (1983) 『日本語文法・連語論 (資料編)』 pp. 21-150 むぎ書房]

略号

ACC:対格、ADV:副詞、DAT:与格、GEN:属格、INF:不定詞、INST:具格、LOC:所格、NOM:主格、PL:複数、PRES:現在、PST:確定過去、REFL:再帰代名詞、SG:単数

転写 (例および用語の表記は、キリル文字の表記に従い、ラテン文字にしたものである)

a-a、b-b、v-v、g-g、d-d、h-đ、e-e、ž-ž、z-z、i-i、j-j、k-k、l-l、lj-lj、m-m、n-n、nj-nj、o-o、p-p、r-r、s-s、t-t、h-ć、y-u、f-f、h-h、c-c、č-č、ц-dž、ш-š